

穴のあいた靴

小松宏佳

この底に穴のあいたくつは四年生のころ国立駅で
買つたくつです。五年生になるときつくなつたの
でくつしたをぬいではくようになりました。その
せいで夏はあつくなつたコンクリートに足がふれ
ていたくなつたり冬は雪などが入りしもやけにな
つたりしました。

二組 小松玄汰

画用紙に書かれた詩のしたに

割り箸ペンの墨で

柔らかくゆがんだ黒い運動靴の絵があつた

息子がこれを持って帰つてくるまで

この靴のことをわたしは知らなかつた

靴底を見ておどろいた

直径四センチくらいの穴だ

あわてて買いに走つた

こういうことを言わない子供なのだとわかつた

言われないと気づかないわたしだとわかつた

彼の足の哀れだけを見て

靴を処分したら彼はとても残念がつた

穴も好かれて広がつていったのだ

小人のせいだろうか

低学年のころまで

猫が路上でごろんごろんするのを真似て

路上でぐるぐる転がつたり

お店でなにを聞かれても

「にやおー」としかこたえなかつた彼の国には

靴屋の小人やまねっこ小人が住んでいた

絵のまえで小人が咳払いをすると

絵の靴はひとりごとのように言つたのだ

おれはね、脱皮の皮なんだよ。